

験例では、口腔内病変が著明でかつ Dsg3 に対する IgA 抗体が陽性であったことから、この IgA 抗体が病原性に関与している可能性が高いと考えられた。炎症性腸疾患に IgA 天疱瘡を合併したという報告は自験例を含め世界で 3 例認めるのみであり、大腸粘膜には Dsg3 は発現していない事が確認されていることから、潰瘍性大腸炎の合併を IgA 抗 Dsg3 抗体のみで一元的に説明する事は困難であったが、何らかの免疫学的機序が両者の合併に関与した可能性は否定できないと思われる。

PB-41.

東京医科大学学園祭訪問者を対象とする健康診査における医学部学生の実習参加が診療および医療面接手技の向上に与える効果の客観的評価

(東京医科大学医学部 5 学年)

○藤城 幹山、他、医学部学生有志 68 名
看護学生有志 21 名

(内科学第二)

富山 博史、平山 陽示、新井 富夫
浅野 毅弘、小野 晴稔、原 武史
山田 昌央、山科 章

(臨床検査医学)

福武 勝幸、腰原 公人、大瀧 学
尾形 享一、加藤 宏基、佐々木昭仁

(放射線医学)

阿部 公彦

(内科学第五)

松岡 健

【目的】 例年、東京医科大学学園祭に併設して学園祭訪問者を対象に健康診査が実施されている。この健康診査には希望する医学部学生も診療実習として参加する。本研究は、同実習参加が医学部学生の診療および医療面接手技の向上に寄与するかを客観的評価法にて検討した。

【方法】 客観的評価法として、診療技術については実習参加学生 8 名を対象に血圧測定手技について予め設定された評価項目に従った客観的臨床能力試験 (OSCE) を実習前後で実施した。医療面接手技については実習参加学生の医療面接の態度 (説明と同意・問診) を 5 項目にて評価するアンケート用紙を用意し健康診査を受けられた患者さんに評価・記入していた

だく協力を得た。

【結果】 OSCE の総点は実習終了後 4.5 ± 1.6 から 7.5 ± 1.7 へ有意に上昇した ($p < 0.01$)。また 医療面接態度に対するアンケートでは、個々の学生が行った患者さんの面接順番が 7 番以降では総点 28 ± 2 であり 7 番より前の総点 25 ± 7 より有意に高い評価点を示した ($p < 0.05$)。

【結論】 東京医科大学学園祭に併設して実施される健康診査への医学部学生の実習参加としての参加は、客観的評価法にて診療技術および医療面接手技向上に有用であることが示された。

PB-42.

Medical English education through the eyes of first-year Tokyo Medical University students

(International Medical Communications Center)

○R. Breugelmanns, J.P. Barron, K. Yamamoto
T. Mukaide

We conducted a questionnaire survey of first-year Tokyo Medical University students to assess their awareness of the importance of medical English education and their satisfaction with the current medical English program.

A 32-item questionnaire was given in class to 106 first-year students present on July 8 2003 (72 men, 34 women). The recovery rate was 100%. The questionnaire consisted of five sections: hours spent studying all subjects, medical and general English, the use of information technology (computers, internet, mobile telephones), course evaluation, and personal information.

The results showed that first-year students in the new curriculum at Tokyo Medical University on average spend 5.96 hours per week studying outside of the classroom. Close to half of this is spent studying for English courses overall (2.76 hours), most of which is spent on medical English in particular (1.88 hours).

Regarding the importance of medical English, 71.7% of respondents considered medical English 'very important' or 'extremely important', with over half (57.5%) replying that medical English occupies a 'very important' or 'extremely important' position in the curriculum overall. Asked to select which they found most impor-